



弱者への思いやりが、現状の世界における要求であるとの認識

Kuroda International Foundation

Takeshi Kuroda

格差社会と新しい世界の潮流は、その先端性におけるトレンドを世界が自己に有する。高学歴とキャリアにおける羨望は、明らかな現実であり、世界の新たな創造を有するのである。これらは弱者の切り捨てという新たな現実へ直面する。

北欧における先端社会性は、ベーシックインカムや新たな社会の創造を模索するのであり、これらは上記現実に対して、世界がその新たな選択を有することなのである。

環境負荷ゼロの社会の実現や、世界の問題の解決は、未来の創造の基盤であり、技術進歩は明らかに新しい世界の創造を現実の有するのである。

これらはネクストソサエティが現実としてその息吹を現在有するのであり、未来への歩みは世界が新たな現実へ直面しその選択を強要されるのである。

これら未来へのタイムラインは、次世代社会と生活への移行を有し、宇宙への参加という新しい時代への参加を有するのである。

唯一考慮されるべきは、進歩という時代へ弱者の落伍という絶対的な現実を与える。それは教育における知性と技術と富という現実に対してそれを得ない存在たちとの間で、明らかな新しいヒエラルキーの形成を有するのである。

そのため教育の平等性ととも、社会と時代への参加をすべての存在への与えることが義務として求められると考える。これら新しい時代への参加は、社会基盤の再構築を必要とするのである。